

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 閉会中継続調査事件

(1) 函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、3月9日開催の委員会において、市の取り組み状況などについて理事者から説明を受けた後、ポイントとすべき本市の課題などを各委員から御発言いただくことを確認していたので、理事者に出席していただいている。
- ・ それでは、説明をお願いします。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 資料説明：函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備について（令和4年3月28日付 経済部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだが、ただいまの説明について、各委員から何か御発言あるか。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 本日の委員会に出た公共施設整備についての資料だが、この委員会では昨年の9月10日にこの公共施設整備の方向性についてということで中間報告をいただいている。そのときにもう既に商業棟の3階と4階を買い取るだとか、公共施設を5施設出されて、それについては新しい施設を付加することは考えていないとか、いろいろなことをあのときに述べている。それがあって今日この資料をいただいてふさわしい公共施設が必要であると考えとのことだが、ではこの間のことは白紙に戻って、ここからスタートするというところでよろしいのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 9月10日の委員会に委員御発言の同様の資料を提出させていただき、種々議論をいただき、御意見をいただき、その中で市民説明会等についてもしっかり行うべきだという御意見をいただいた。また、議会の中でも議会の意見などという御意見もいただき、改めて市民説明会を本来であれば今年の1月に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況のため、4月に延びている状況であり、そういった市民説明会での市民の意見や議会の意見を踏まえ、9月に提出した資料はベースにあるものの改めてそういった意見を聞いて、それを反映させたものとして考え方を作っていくたいと考えたところだ。

○齊藤 佐知子委員

- ・ それでは今の段階ではこの公共施設に関してはこの施設を入れるとかそういうことは一切ないということでもいいのか。公共施設は入れるにしてもどここの施設をと、前に名称も上がっていた

が、そういうことは白紙になっていると考えていいのか。それともあくまでも9月10日の委員会で出された5施設をベースにとりいう考え方になっているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 公共施設そのものについては、経済部が所管するにぎわい創出のための施設ということで議論いただきたいと思っている。一方で周辺施設の複合化については将来的な財政負担も含めて複合化の検討が必要だというふうには思っている。一方で9月には検討の対象施設を候補として挙げさせていただいた。こちらについては最終的に庁内として決定しているものではないので、今後議会や市民意見を参考に慎重に判断してまいりたいと考えている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ それではこの資料に基づいてお聞きするが、再開発準備組合から図書機能と交流機能を有する施設がほしいと希望があるわけだ。再開発準備組合に対しては、市としては何らかの返答はしているのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 再開発準備組合とは、これまでも市としてオブザーバー的な位置づけではあるが再開発事業に関して必要に応じ、まちづくりの観点から助言などをしてきた。その中で計画について公共施設3階、4階——当初は3階に設置することが希望ということでお話をいただいていたところなので、市としての公共施設の整備は交流機能、図書機能を有する施設であれば2フロアが必要と考えているということは準備組合へは口頭でお伝えしている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 本当にいろいろな考え方があると思う。図書機能、交流機能を有する整備というのは組合の側から希望として上がってきたと。それから市としては今どういう公共施設がいいかと考えていくということだが、例えば図書館というのをまちづくりの一環に位置づけて、他の町でも中心市街地の活性化に図書館を重視しているところもある。そういう中で、実際にやっているところのお話を資料で見させていただいたが、確かに図書館を含む再開発事業はまちへのにぎわいだとか人がたくさん来るといった効果は望めるが、商業施設としての売上を伸ばすという効果はなかなか見えなかったという意見もある。そういう中であくまでも組合の要望に応じて図書機能は口頭で返事と云っていたが、そのあたりは組合の要望に応じて図書機能と交流機能の施設を入れるというお話は既にしていくということよろしいか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 交流施設、図書機能を含めた施設、これを必ず入れるという、まだ議会でも市としての決定もしていないので、これを検討しているということで組合のほうには伝えている。やはり委員がおっしゃるようにこの公共施設が大門の活性化、特に商業としての活性化につなげていきたいというのが、私どもの思いであり、こちらについては図書機能ばかりではなく交流施設、それを商業施設とコラボさせる。また、市民広場もあるのでこういったものでそれを商業とつなげていく。その施設が地域の商業活性化、にぎわいづくりにつながっていく。こういった施設づくりをしていきたいと考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 経済部長の答弁で昨年の9月10日の中間報告と違うのではないかという答弁があった。9月の中間報告がベースになるとおっしゃった。そうすると今回の提案の中のベースには5つの施設が一応あると、統廃合を含めてあると考えていいのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 考え方については、候補施設として9月に挙げさせていただいたところだ。今後利用者や利用団体といった方々、議会の議論を踏まえて最終的に決定していきたいと思っている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 否定はしてはなくて、全く変わったわけではなくて、その中身も含まれると考えていいのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 議論の中ではどういった意見も今の段階で全て白紙に戻すということではなく、全ての意見として議論していきたいと思っている。

○紺谷 克孝委員

- ・ そうすると新しい公共施設については、統廃合を予定していた5つの施設の持っている機能を継承していくという考えで進めていくのか。それとも全くそれとは関係なく新しい市民、観光客が望む駅前にふさわしいものを新たに考えていくのか。その点はいかがか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 複合化施設の機能の継承についてのお尋ねだが、函館駅前・大門地区には地区の立地の特性も考え、多くの方がいらっしゃると想定しているので子どもから高齢者まで性別を問わず集い交流する施設が望ましいと考えており、これは経済部の考え方ではあるが、所管部局の機能を継承することも今後所管部局と調整しながら検討してまいりたいと考えているところだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ そうすると5つの施設の機能の継承も視野に入れてやっていくということでもいいか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 機能継承についてはそのとおり、所管部局と調整してまいりたいと思う。

○紺谷 克孝委員

- ・ 私は議会の中でもあったとおり新しい施設を造っていくというのは第一ににぎわいが戻ってくるような、そして観光客も市民も集まれるような、そういう公共施設にするというのが最大に考えるべきで継承ありきの考えで進めるべきではないと思う。亀田交流プラザの事例やGスクエアとは同じように進めたいという考えは示していたが、私は亀田交流プラザとは全く違うと思う。なぜかという亀田福祉センターというのは施設があってその機能を大いに継承して新たに機能を加えていくという考えで亀田交流プラザはやっていたが、今度の新しい公共施設は今までなかったわけだ。ふらっとDaimonはあったということはあるが、亀田交流プラザとの計画の立て方、企画の立て方は全く違うと思う。そういう点では亀田交流プラザの整備との関連性は非常に少ないと思うが、そのあたりの考え方はどうか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 亀田交流プラザを例に挙げての御質問だが、先ほど担当課長が答弁したとおり、施設については地区のにぎわいを創出するような施設にしたいということで、子どもから高齢者まで性別を問わず集

い交流する施設。要は市民誰もが集い集まっていただけの施設が好ましいと思っており、そういった施設の役割、機能を議論する中で周辺施設と重複するような機能があれば継承する中で周辺施設の複合化が可能なのかなどを今後検討した中で最終的に市民の意見や議会の意見も踏まえて決定してまいりたいと考えており、亀田交流プラザのようにこの施設そのものを統廃合して施設ごとに入れるということではなくて、機能として役割として重複するような機能があれば継承できる機能が複合化に値するような機能であれば複合化についてもしっかりと検討していきたいと考えているところだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ そういう点からいくと新しい公共施設は目的にふさわしい施設というのを市民や有識者から意見を聞いて整備していただきたいと思う。それと同時に5つの公共施設については建設後に果たして継承されている機能があるのかなどということを含めて建設後に検討して統廃合については進めるべきではないか。同時並行で進めるということについては非常に問題が多いのではないかなと思う。そういうことでそういうふうに進めていただきたいということを述べておきたいと思う。
- ・ それからスケジュールについては4ページに示されているが、市民説明会の開催ということで、有識者からは意見聴取、関係団体からも意見聴取となっているが、市民説明会についても意見聴取ということではないのか。書かれていないので。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 市民説明会の意見聴取についてのお尋ねだが、市民説明会は9月にお示した中間報告をベースに説明させていただくものだが、その意見は参考とさせていただいて今後の考え方に必要に応じて反映させてまいりたいと考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 中間報告をベースに説明するということは中間報告が前面だということか。今日の内容ではないということか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 先程来申し上げているが、9月にお示したのものについては基本的にベースとして考えているところで、そういったものも含めて市民に複合化に向けた考え方なども説明したうえで意見をいただいて参考にしていきたいと考えており、まずは市としての考え方を示して、その中でまた様々な意見をいただきたいと思っているところだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ 5つの施設の統廃合を考えているということで説明するということか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 市民説明会の内容だが、市民の方にはまず駅前・大門地区の現状や課題をお話しして、棒二森屋が閉店してにぎわいが失われているので、こういったところで棒二の再開発事業も行われることから、公共施設でにぎわいを取り戻したいと考えているところだ。そういった説明をする中で将来的な財政負担も考えて複合化も検討するということが、メインはあくまでもにぎわいを生むための整備をこれから進めていく、現状と課題はこうだ、ということがメインの説明になると考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ やはり9月の中間報告の内容できちんと説明するのか、あるいは今日の内容で説明するのか、はっきりさせたい。なぜかという5つの施設は多くの市民が利用していると思う。市民を惑わすような説明ではなく、きちんとした方向性、自分たちの考えを示したうえで市民に問うということをぜひお願いしたい。例えば5つの施設を曖昧に提案しておいて、実際は行政でやっていくということが後になってはっきりわかったということにならないように最初にそういう考えであれば市民説明会、あるいは有識者、関係団体の人たちにもきちんと真意が伝わるような説明会にしていきたいということを要望しておく。

○工藤 恵美委員

- ・ 確認しながらだが、今棒二森屋がなくなって、商業施設がないということで不便を感じている人が多いと思うが、今後の取り組みの中で令和4年度中に実施予定している主な取組内容だが、これから考えられていくのだろうが、何かものをつくるときにワークショップ方式で何が必要かどんなまちづくりが未来において——今現在必要なものと将来に向かってのまちづくりという考え方があると思う。そのときに例えば市民説明会の開催についてはどういう人たちに声をかけるのか。広くなるだろうが。なかなか今現在地域に暮らしている人たち、住民だとか勤めだとかそういう人たちが多く集まるのか。ここにも書かれているが、駅前地区は公共交通の拠点になっているわけで電車もバスも通っている。函館市内全域から集まって来れる状態。私が住んでいるのは山の手だが、病院は江口眼科だとかに行くわけだ。そうなる公共交通機関を使って電車とバスで来るわけだが、そういう人たちはいっぱいいると思う。帰りに買い物していこうとするが、今は駅前に降りても商業施設がなく、例えば文房具がほしいと思っても駅前に降りても本屋、文房具店がなくなってしまっ買って五稜郭に降りている。そういうところで、何を言いたいかという全市の人たちが集まってくるとすれば今不足しているもの、私たちの世代、それから今後のまちづくりとして、未来の、将来のまちづくりの考え方として若い世代、学生——高校生、大学生だとか。そういう人たちの意見を聴取するようなワークショップ方式で考えることも大切ではないかと考えている。例として日吉町の施設を造るときに大学生と地域住民でワークショップを開いた。欲しいものは何があるかと、郵便局やみんなが集まる施設だとかちょっとした会議室、お風呂屋さんもあればいいねという話がいっぱい出てきた。お風呂は山の手温泉があるので、郵便局ができた。それからスーパーマーケットができた。そういうふうにして1つのまち、エリアができあがったわけだ。介護施設は残念なことにはなっているが。そういう方式が取り入れられて、関係者だけじゃないいろいろな意見を聴取できるような体制を組んでいきたいと思っているが、その点についてはどのようにお考えか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ いろいろな方からの意見聴取の方法についてのお尋ねかと思うが、まず市民説明会に関しては広く市民の方に参加していただけるよう平日は参加が難しい方に対して土曜日の開催、それから夜でないと参加できない方に対して2回目は平日の夜の開催ということで広く市民の方にいらしていただきたいと考えているところだ。これから有識者の方の御意見もいただきながら原案を取りまとめ、原案の取りまとめ後、また市民説明会、有識者からの意見聴取も行っていきたいと考えており、

実際に施設を整備するに当たっては基本計画を策定してまいるが、こういった部分で若い方にも意見が聴取できるような手法について今後検討してまいりたい。

○工藤 恵美委員

- ・ ぜひともそういうふうにしてほしいと思う。まちの声の一つだが、新幹線が札幌まで延伸できたら、買い物はみんな札幌に行ってしまうのではないかと。今函館市内の人口も若い人たちは、小学校も桔梗小学校が一番多く、1,000人くらいいるんですか。そうなる若いエリアになっている。その人たちが新幹線の駅に近いとなればみんな札幌に行ってしまうのかなと。そうではなく、その電車は函館駅にもつながっているわけなので、電車に乗って函館駅に来て、このエリアでショッピングができると。ここにすれば間に合うというような施設を考えていただきたいと思う。行政はどうしても図書機能だとか交流機能だとか、もちろん必要なことだと思う。ギャラリーがほしいとか。そういうところもほしいと思うが、それに伴って人が集まってきたときにショッピング、満足できるような施設をバランスよく考えていただきたいということを要望して終わる。

○島 昌之委員

- ・ 今後の取り組みということで、令和4年度中に公共施設整備の基本的な考え方の原案を取りまとめるということだが、昨年11月17日に再開発事業の進捗状況ということで説明いただいたと思う。このときに調整が難航しているという話もあったのだが、この辺について現在どういう状況になっているのかお知らせ願う。

○経済部長 (小林 利行)

- ・ 再開発事業の進捗状況についてだが、11月に都市建設部のほうからお話があったと思うが、現時点についてもホテル事業者と調整を進めていると準備組合から伺っているところで、近々またホテル事業者とも調整を行う会議を開くということは伺っているので、最終的にまだ決定している状況ではないという認識ではある。

○島 昌之委員

- ・ 確認だが、11月17日配付の資料によると今年の令和4年2月中にホテル事業者と参画条件について取りまとめるというふうに説明を受けたが、これはまだ現時点ではなっていないということか。

○経済部長 (小林 利行)

- ・ 現時点でホテル事業者と最終的な合意を得ている状況ではないと認識している。

○島 昌之委員

- ・ そのうえで何点か確認させていただく。中間報告のときにこの公共施設について、今の説明もあったが、子どもから高齢者まで性別を問わず集い交流する施設が望ましいということで全て対象にするということだが、本当にそれがいいのかどうか疑問に思っている。全ての人を対象にするということは誰も対象にしないということにもつながりかねないのではないかと。例えば今函館の課題として若者の流出がどんどん進んでいて、特に若い人たちが活躍できるような、そのためにこの駅前再開発がどうあるべきかなど、工藤委員からもあったが、若い人たちの声をどうやって取り入れて生かしていくのか。5年後じゃなくて20年、30年先にこのまちのあるべき姿を検討するためには若い人たちの意見を反映させることが大事であり、そういう人たちがそこに集って今後のまちづくりについてどうすればいいかという話をできる場になるのがいいのかなと思っている。子どもから高齢

者までという一見聞こえはいいが、もう少しそこをしっかりと絞るということも必要かと思うが、その辺の考え方はいかがか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 新たな公共施設について、世代を絞るべきかというお尋ねかと思う。類似施設としてGスクエアを整備したが、当初は若い方に向けた若い方が活躍する場として整備したところだが、現在利用のされ方としては、学校が終わった時間帯は学生が利用しているが、午前中の学生が来ない時間帯は高齢者の方も利用していて幅広い年齢の方に利用していただいているところなので、新たな公共施設についても多くの方にいらしていただけるような仕組みはしっかり検討していきたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 前の中間報告のときに市民のニーズをどのようにキャッチするのかと質問したときに小林部長からは幅広く市民を対象として説明会を開催して市民の意見を吸い上げられたらいいという話があったが、まずどういうニーズがあるのか、例えばせつかくこういうものをつくりましたよと、だけどニーズがないものをつくっても意味がないわけだ。20年、30年先にどういうニーズがあるのかということを見越したうえで整備が必要かと思うが、改めてニーズの把握についての考え方を伺いたい。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 市民ニーズの聴取の仕方ということで9月にも話をしたが、市民説明会を開催させていただき、先ほど担当課長のほうからも答弁させていただいたが、具体的な施設の内容や運営方法やこういったものを基本計画の中で形をつくっていくと考えているところであり、そういったところでどうやって市民のニーズを聴取するかについては、先ほど工藤委員のほうからも提言のあったワークショップや利用者のアンケートや、そういったことも踏まえて幅広くニーズを捉えるような形を検討してまいりたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 市民のニーズと同時に、多くの観光客にもいらしていただけるようにということなので、観光客やよその地域からいらしていただく人たちにも魅力ある施設として、そういう人たちのニーズはどのように把握しようと考えているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 観光客のニーズということだが、なかなか観光客やこれから来ていただく方に対するアンケートというのは難しいものがあるが、この間いろいろと経済部のほうでもワーケーション事業などを実施しており、そういった中で要望も、市に対する要望や設備に対する要望などがあり、そういった様々な観光分野での声も取り入れていきたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 観光で函館にいらした方が夜に時間を楽しむ場所がないとよく言われていて、夜景を見て、そのあと行くところがないと言われることが多かったと思う。その辺に対してどのような考えか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 夜の観光ということだが、この部分に関しては公共施設一つをとって夜の観光客が集うようなところができるかというとなかなか難しいと考えている。そういった中で観光分野としてさまざまな夜の観光に資するような、例えばライトアップをしてみたり、経済部であれば今は新型コロナウイ

ルス感染症により中止しているが、夜祭りといったものも実施している。あと、夜の観光でいうと基本的には函館市でいうと夜景もあるし、全体でナイト観光の部分は議論していかなければならないと考えており、この公共施設一つをとって役割を担える整備ができるかというとなかなか難しいので、それは全市的な取り組みの中で議論させていただければと思っている。

○島 昌之委員

- ・ 先ほど若者の意見をどうキャッチするのかとお話をさせていただいたが、函館にはキャンパス・コンソーシアム函館というものがあり、市内8高等教育機関と函館市が連携して函館市内を大きなキャンパスとして総合大学のような活動を行うとなっていると思うが、例えばキャンパス・コンソーシアム函館と新しい公共施設でコラボするとか、あるいは生かしていくという取り組みについてはどのようにお考えか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 今後の若者との取り組みのキャンパス・コンソーシアムとの連携のお尋ねだが、これから基本計画の策定にあたり、先ほども答弁申し上げたとおりそういったところについても意見を聴取するなど何か反映させられる手法についても検討してまいりたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 多くのビジネスマンがいるわけだが、例えば新しい公共施設の中に高齢者や若者などいろいろターゲットがあると思うが、ビジネスマンがそこを活用して新しい創業、起業などいろいろなものにつなげていくということも必要かなと思うが、ビジネスマンをターゲットとするような考えはお持ちか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ ビジネスマンをターゲットとするかというお尋ねだが、立地の特性上ホテルが建ち並んでいるので観光客のみならずビジネスを目的とした方も駅前・大門地区には多くいらっしゃる想定しているので、例えば図書についてビジネス書を充実させるだとか、交流スペースの中にコワーキングスペース的なものを設けるだとかそういったところは皆様の意見を参考にしながら検討してまいりたいと思う。

○松宮 健治委員

- ・ 基本的にこの案には反対しないが、いくつか前から気になっていることがあり、答弁の中でどうしても公共施設のことが取り上げられがちなのだが、ここは経済部が所管しているということは棒二森屋跡地をどう使うかという話だ。メインは函館駅前にもう一度にぎわいを取り戻すということがメインなので、公共施設をどうするかということはそれはやはり企画部だとかそういうところで本来は所管すべきことかと思う。そもそも5施設が至急統合されるということが独り歩きしてしまって、本来の目的がかすんでしまっている。結果的に5施設がどうなるかわからないが、そういう意味では公共施設整備の基本的な考え方が並行してあるべきだと思う。本来これがきちんと示されていればそれを受けて経済部としては考えていくということで答弁しやすかったと思うが、順番が変わってしまったのかなと思っていたので、今からでも遅くないので、こちらのほうをきちんと進めてほしいと思う。もう一つ、冷めた見方と言われればそれまでかもしれないが、あれもこれもと欲張ると絶対失敗すると思う。もっと言うと駅前商店街の方々が公共施設がどんと来て云々という考え方

はないと思う。もともとは北洋でにぎわった駅前だ。たくさん人が来て、黙っててもお金がもうかった時代のイメージが色濃く残っているので、やはりそこら辺のいろいろな意見を聞いていったときに駅前・大門地区の人の考え方と若者とか美原に住んでいる人の考え方は根本的に違うと思う。今これが整備されたからと美原からたくさん人が買い物に来るかというとは来ないと思っている。それぐらい覚悟してやらないと意味がないと思う。そういう意味では駅前に降り立った観光客や仕事で来た人が一服できるような、そこでまた仕事をしたり観光に出発するようなベースになればいいと思う。ちょっと名前をあげると恐縮だが、スターバックスコーヒーのようなものが駅前にあれば私はかなり活用されると思う。コーヒーを飲む、そこで本を読む、ちょっとしたコワーキングスペースもないわけではないので、ああいうイメージのほうが僕は納得できているので、ぜひあれもこれもと欲張らないで、これだけほど。僕にはぎわいが少しでも出てくれば成功というくらいに考えないと、そこで交流が倍だとかとあまり美しい話を求めないほうがいいと思う。コメントがあれば。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 松宮委員から種々いただいた。私どもも施設そのものがどういった役割で地域のにぎわいにつながるか、こういった議論をしていきたいと思っているところだ。そのうえで機能が重複するよう部分については当然将来的な財政負担も考えて複合化は検討していくということなので、まずはしっかりと施設の役割、機能を議論させていただければと思っているところだ。また、民間商業施設の例を挙げておっしゃっていただいたが、私どももここからここまでがこういった施設、ここからここがこういう施設ということではなくて、極力ゆとりがあって、オープンなスペースで軽食、飲食もできる、コワーキングもできる、場合によっては間仕切りをして会議もできるというような、できればいろいろな方に使っていただけるような施設を目指していきたいと思っているので、そういったものについて今後さまざまな場面で議論していただいて、参考意見をいただいて、施設づくりに生かしていきたいと考えているところだ。

○工藤 篤委員

- ・ 将来的な財政負担とおっしゃっていたが、将来的な財政負担は別にして今の財政負担はどのようになっているのか。都市建設部のほうからは今回、全体として190億円で、そこに国、市が50億円の財政負担をすると。市は25億円というふうに聞いているが、そのほかに公共施設を3階、4階かかわらないが、その購入に対する部分も含めて、市の当面の財政負担はどのくらいと考えているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ ただいま工藤委員から現時点での財政負担というお尋ねだが、御質問いただいたように準備組合のほうからは全体事業費で190億円、そのうち補助金として市から50億円、そのうち財源として25億円が国から入るので、その半分が市の持ち出しということでそのとおりの財政負担が示されているところで、こちらについては、今全体事業計画を見直して調整している状況だ。こちらについてはまた準備組合のほうから調整後の数値が出てくると思っているので、今後その辺は変わってくると思う。また、公共施設については、この負担とは別に施設整備費がかかってくることになる。こちらについては処分価格、いわゆるうちで言うところの取得価格だが、それが示された段階でどのくらいの整備費になるのかお示ししていきたいと思っているが、基本的には国の交付金事業ということでこれら

の公共施設を整備する場合については2分の1の財源負担があるということで検討を進めているので、全体事業費の半分程度が最終的な市の負担になってくるというふうに思っているところだ。

○工藤 篤委員

- ・ 今、最後のほうで全体事業費の半分程度とおっしゃっていたが、そうすると全体とは190億円ということか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 言葉足らずで申し訳ないが、全体事業費というのは公共施設の整備費全体事業費の2分の1程度が市の負担になるということだ。

○工藤 篤委員

- ・ その公共施設というのは概略どのくらい予定しているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 現時点で準備組合のほうから取得価格が示されていないので、本当に雑駁な数字にはなってしまうが、Gスクエアの1フロアが約10億円だ。仮に2フロアを整備するとすればその倍、もしくは設備費などがかかってくるのかなと考えている。平米単価がどうのこうのということではないが、そういう規模の設備費、事業費になってくるのかなと思う。

○工藤 篤委員

- ・ Gスクエアが1階10億円ということなので、簡単に言えば20億円。そのほかにいろいろな設備費となるとそれでは足りないということで理解していいか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 正確に積算したわけではないので、大体つかみとしての数字をお伝えしたところで、Gスクエア1フロアが10億円で、2フロアになると…。プラスいろいろと設備も違うので、そういったものがあるということで足りるか足りないかということについては今後きちんと積算をしていかないと明確にお伝えすることはできないということで御理解いただきたい。

○工藤 篤委員

- ・ 理解しづらいんですよ。ということは、こうやります。そのときこれだけかかります。次の段階ではこれだけかかりますと積み重なって提示されて、議会での議決はここまで来たんだから仕方ないだろうというようなある意味消極的な賛成で進められてきているということが非常に多い。そういう意味では全体の事業費がこれだけあって、市としてはこういう部分でと。本当につかみでいいので、これくらいのものが必要だと。今初めて聞いている。25億円を都市建設部のほうで予算化した。そしてここの部分は約20億円。中の設備等を含めるとそれで足りない場合もあり得ると。それに対して国が2分の1の補助と理解していいのか。そうすると10億円ちょっとと。合わせて35億円ちょっとくらいが市民の負担になると。起債なので。はっきり言って借金なので。その辺のこともきちんと周知して市民の理解を得るような形にしてもらいたいと思う。
- ・ 駅前・大門地区の現状と課題ということだが、これをどう分析するかによっていろいろな考え方が生まれてくるんだろうなと思う。中心市街地活性化基本計画が進んでから三、四年がたつが、ここの総括をきちんとしてほしいということ要望しておきたい。

- ここに書かれている中で「賑わいづくり、回遊しやすい環境づくり」と、部長がおっしゃったようににぎわいと売上の相関関係がなかなかよくわからないと。課長はにぎわいを主として考えていると。しかし、市民の税金が使われるということはある意味で売上があって、そこからの市税なりがあって市のほうに戻ってくる。そこで初めて市税を使ってもいいという判断を市民がすると思う。そのところ間違いのないようきちんと総括をして、提言をしてほしいと思う。
- 細かく言うが、街なか居住推進の観点から云々とあるが、中心市街地では街なか居住推進の観点という84戸のマンションを建てたが、そのマンションはどういうような経過だったのか、つまり函館市民がそのマンションに住んでいるのか、ほかから来て住んでいるのか、そして別荘になっているのかどうか。別荘のために市民の税金を使っているわけじゃないので、そのことによって経済的な効果があるわけなので、その辺の分析をきちんとしてほしい。マンションを建てることによって、そこに住むことによって、例えば固定資産税がこれだけ入ると、そういうような分析をきちんとして提案してほしいなと思う。
- それとこの文章をよく理解できなかつたのだが、「空き地や空き店舗が解消され、一定程度土地の有効活用が図られた。一方で、当該地区の人口や小売業の事業所数などの減少が続く」というのはどういう相関関係になっているのか、教えていただきたい。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- 駅前・大門地区の現状についてのお尋ねだが、まず土地の利用動向については新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の調査になる。その時点では民間投資の動きが活発化しており、主なものとしては複数のホテル建設、大森町での大型医療品店、また、若松町のスーパーマーケットの建設のほか、松風町の太陽グループの開発予定地の動き、JR函館駅に隣接する複合施設ハコビバのオープンなど、こういった部分の専用駐車場としても土地が利活用され、空き地、空き店舗が解消された一方で営業する店舗についても減少したところであり、人口も減少している。これは全市的な流れと同じだ。また、歩行者通行量については一番大きな影響としては、棒二森屋の閉店があり、こういった部分で民間投資の動きが活発化されて交流人口は増えたものの一方で市民が足を運ぶ来街の機会が棒二森屋の閉店によって減少してしまったという状況だ。

○工藤 篤委員

- 人口推移を見ると全市的なものよりもパーセントでいうとその倍以上減っている。その辺の分析はどのようにになっているか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- 人口の分析についてのお尋ねだが、古くから西部地区に多くの方が住んでいたが、安い土地を求めて郊外化している。また、併せてモータリゼーションの普及により郊外化しており、駅前・大門地区の人口については減少し続けているという状況だ。

○工藤 篤委員

- 僕らのイメージとしては、中心市街地活性化のときもそうだが、駅前・大門地区という感覚だ。西部地区とはまた別な施策が練られているが、ここの地域の分析はされているのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 駅前・大門地区に特化した分析ということだが、今お話しした西部地区と同様に人口が減少しているところだ。

○工藤 篤委員

- ・ そういう中で街なか居住推進の観点からも進めていくということだが、では具体的にどういう進め方をしようとしているのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 街なか居住推進の観点についてのお尋ねだが、現在都市建設部において立地適正化計画の居住誘導施策ということで都市再生整備計画において居住を誘導しようという施策もある。また、先ほど工藤委員からもお話があったキラリスで、ちょっと古いデータにはなるが、当時は7割程度の市民の方が住んでいると調べており、また、棒二の再開発事業の中ではマンション棟が整備されるので、そういったことから定住人口を一定程度確保できるものと捉えている。

○工藤 篤委員

- ・ 立地適正化計画というのは、都市建設部のほうからも聞いたところだ。それは産業道路の内側のほうに誘導するということだが、今の話では郊外化して、そして立地適正化で中に入れようとしている。これは5年や10年や20年でやれるものではないですよ。なのでそういうスパンを頭に入れながら簡単なものではないということを引きちんと正直に出していただきたいと思う。
- ・ 概念の統一化を図らなければならないと思うが、「当該地区にかつての賑わいを取り戻し」と書いてあるが、かつてとはどの時点イメージしたらいいのか。これによってそれぞれ違ってくると思う。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ かつてとはどの時点かというお尋ねだが、古くは恐らくどっくの繁栄やそういった部分でかなり多くの方でにぎわっていたと思う。その後人口も減り、駅前・大門地区にはホテルが立地し、函館の顔ということで多くの観光客やビジネスの方でにぎわっていたところだが、何度か説明したとおり老舗百貨店が閉店し、市民の来街機会も減っている。そのかつてという時点は理想を言えばかなり古い時代かもしれないが、まちの在り方が当時から随分変わってきているので、そういった今の在り方としてコロナ前のにぎわいやそういった部分へ戻したいということだ。

○工藤 篤委員

- ・ 年代によってイメージが全然ばらばらで、課長はまだ若い、部長はかつての北洋漁業の頃…。それはちょっと失礼だったかと思うが、僕らの年代からすると北洋漁業の頃にキャバレーが満杯ですごいやったというか、そういう時代をかすかに覚えているが、あんなことはあり得ない。そんなことは来るわけがない。だから、そのかつてというのは昭和何年頃にこれだけの売上があったとかということもあるが、やはりイメージの統一をしてほしいなと思うので、お願いしたいと思う。
- ・ 先ほどお話しいただいたが、一定程度という言葉はできるだけ使わないでほしい。きちんとした数字を基にこういうような活用が図られたと示してくれないと一定程度に逃げてしまうということがあるので。数字を基にした計画、現状認識をお願いしたいと思う。

- ・ 2ページ目の観光客入込客数だが、今コロナ禍だが一緒になってしまっているのでは、どういう分析をしたらいいか、受け取るほうも悩んでしまう。コロナ禍が終わったあとというかそういう希望の中で、どういう中でどうしていくかということもぜひ提起してほしいと思う。
- ・ 小売業の動向だが、これを見ると事業所数も従業員数も年間販売額もいずれも減少していて減少幅は全市と比べて大きくなっている。ということは逆に言えば中心市街地としての各地域からの導入、魅力というものがなくなっているのではないかと思うので、その辺はどういう認識をしているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 工藤委員のほうからかつての部分も含めていろいろお話しいただいた。先ほど私だとかかつてとは北洋の時代かなというお話もあったが、確かに委員がおっしゃるようにはまちの形がその時代とは大きく変わっている。将来的にもまた変わってくるんだろうなということで、古く北洋の時代をもってかつてという部分を言っているかということ、中心市街地として顔として、にぎわいを昔のような形の、大門に人が集まっていたようなまちにしていきたいということで使わせていただいている。その意味でかつてという言葉を使わせていただいたが、具体的に何年度を目標にということではないということで御理解いただきたい。
- ・ 一定程度という部分について、この間いろいろと議会の答弁でも一定程度というお話をさせていただいたが、なかなか目に見えてこないということで今回の資料についても簡単なデータではあるが、こういった形で減少している、土地の利活用についてもこれだけの利活用が図られているという具体的な数字を示した中で御説明させていただいたところだ。
- ・ 今後の新型コロナウイルス感染症の部分に関して、まちづくりとしてどのような駅前・大門地区がにぎわいを取り戻すのか。こういったことは立地適正化と言いつつ、中心市街地もしくは適正化区域に人口を呼び戻すということは一朝一夕にいかないことも十分理解しているし、ただ、今一步を踏み出すことが必要なのかなとも思っているところであり、総合的に函館市のまち、特に駅前・大門地区がにぎわいを取り戻せるようなまちづくりを少しずつでも進めていきたいと思っているところである。

○工藤 篤委員

- ・ 3ページ目の歩行者通行量だが、「駅前・大門地区の歩行者通行量は、ここ数年大幅に減少している」ということで、先ほど棒二森屋が閉店したことによる云々とおっしゃっていたが、その辺の分析をもう一度願います。それと点線の枠内だが、これはどういう意味か。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 3ページの上段の表の説明だが、この間歩行者通行量に関しては中心市街地活性化計画以前から交通量調査をしており、分析とすれば駅前・大門地区に関しては大体3万5,000人前後の方が往来をしていたということだが、棒二森屋閉店を期に減少傾向が如実になってきている。加えて新型コロナウイルス感染症の拡大によって交流人口そのものが減少しているということでアネックス前も含めてそういった傾向があるという説明をさせていただいた。点線の部分だが、今回再開発の対象となる棒二とアネックス館の前ということでその下降が如実だということを示すため点線で囲わせていただいたということだ。

○工藤 篤委員

- ・ 自分自身、棒二森屋がなくなってから足が向いてないので、そういう方が結構たくさんいらっしゃるのかなど。
- ・ 次の土地利用動向だが、先ほど説明していただいたが、2行目に「店舗数は減少しているものの、空き地面積や空き店舗数については、解消が図られており、土地の有効活用が進められている」と。パーキングが増えるのは分かるが、有効活用できないからとりあえずパーキングにするという消極的な動きが見られるのかなと思うが、ここをもう一度説明願えるか。事務所が若干増えているが、これはどういう意味か。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 空き地、空き店舗の調査についてのお尋ねだが、こちらの調査は平成24年度から毎年行っており、経年の動きを確認しているもので令和元年からは2年に1度の調査となっている。調査期日は毎年3月31日現在ということで、こちらの直近の調査は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前のデータとなっていることを御理解願いたい。全体的な分析としては新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前なので繰り返しにはなるが、民間投資の動きが活発化していた。駅前・大門地区において主なものとしては複数のホテル建設、大森町の大型医療品店、若松町のスーパーマーケットなどの建設、また、松風町だが太陽グループの開発予定地の動きやJR函館駅に隣接する土地の複合施設ハコビバのオープンなど、またこういった施設の専用駐車場として土地が利活用され、空き地、空き店舗が解消されたが、一方で営業する店舗についても減少したところだ。事務所については調査期日が3月31日時点ということで、どうしても入れ替わりがあるので1つ1つの分析はできていないが、そういった部分でおそらく何らか4店舗増加したデータになっているものと考えている。

○工藤 篤委員

- ・ ホテルとかの増加というものが、非常に寄与しているかと思うし、一方ではコロナ禍によってそれがどう活用されていくか、どう持ちこたえていくかが課題になっているんだろうと思う。ハコビバについて新聞にも載っていたが、僕も行ってきたがほとんど人がいないという状況でどうするか大きな課題になっていると聞いている。
- ・ にぎわいと売上の関係について、部長もおっしゃっていたが、公共施設だけでにぎわいを取り戻すというのは先ほどもおっしゃっていたが、ほぼ無理だと思う。公共施設を入れて若干にぎわったけど全然売上に繋がらないということになると思うので、その辺は慎重に進めていただきたいと思う。

○山口 勝彦委員

- ・ 各委員からいろいろな意見を聞いて大体理解できたが、非常に感銘したのは斉藤委員と松宮委員が言っていた現状。やはりここは最後に工藤委員が言ったように公共施設の課題になっている5つの施設の誘導に関しての話だと思うが、その前にタイトルが函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備ということになるとまだまだ接点がかみ合わない部分がたくさん、松宮委員が言うようにあると思う。その辺のある程度もまれた今日出た意見を掌握して次回に大いに活躍できるように。この事業はすばらしいことだと思う。ただ今、新型コロナウイルス感染症と国内外の情勢がよくないということで一般の企業の投資の刺激になるような環境ではないことも事実だが、しかしなが

ら函館市としてどのように支援できるかということも大いに議論していかなければならないと思うので、その辺はどのように今後この委員会を進めていくのか。やはり駅前の開発整備の目処が見えないといくら議論してもそちらのほうに走ってしまう。どうしても関連する事業なので。そういう意味で駅前・大門地区をにぎやかに、元に戻すような努力をすることは大いに結構なことだと思う。島委員がおっしゃられたように若い人の意見。将来に託す人の意見を幅広く取り入れられるような環境がいいと思うが、いかがか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 副委員長の方から御意見いただいたが、私どもも地区の活性化に向けてこの公共施設がどのようなものかについてしっかり議論していきたいと思っているところであり、当然地区の公共施設の整備と商業施設の相乗効果で地区域全体の商業の売上やさらなる活性化につなげていきたいと思っている。その中で若い方の意見についても基本計画をつくる中でどういった形でどういった世代——若い人に特化するということも必要だが、いろいろな方の意見も聞いていきたいと思っている。また、御意見もあったので特に若い方の意見を聴く場をどういった形でつくれるのかを十分検討させていただきたいと思う。

○山口 勝彦委員

- ・ そのように対応していただければと思う。委員会の方向もそういう形でベースがきちんとなって進めやすい形で統合、配置、様々議論していったほうがいいと思うので、今後ともよろしく願います。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言はないか。（なし）
- ・ ここで理事者は御退室願う。

（経済部 退室）

- ・ ただいま、理事者から説明を受けた上で、本市の課題など今後の調査を進めて行く際にポイントとすべき事項について各委員から御発言いただこうと思っていたが、かなりの部分が先ほどの質疑等で御発言あったので、さらにそのようなポイント等があれば御発言あるか。（なし）
- ・ 先ほどの理事者との質疑の中で提言やポイント等があったがそれ以外にあるか（なし）
- ・ 次回だが、本日皆様からいただいた質疑等を踏まえて正副で整理し、委員会として課題・問題点として取りまとめたいと思う。
- ・ また、正副としては調査の参考とするため、地域の活性化に貢献している先進的な公共施設を整備している都市へ行政視察を行ってはどうかと考えているが、いかがか。（異議なし）
- ・ 調査する先進自治体や日程等については正副で調整の上、改めて皆様と協議してまいりたいと考えているがよろしいか。

○工藤 篤委員

- ・ 失敗に学ぶということもあるので、うまくいっているところじゃなくてそうじゃないところも視野に入れていただきたい。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 正副で協議するが、皆様からも候補があればお知らせいただきたいと思う。

- ・ その他、本件について、各委員から何か発言はあるか。(なし)
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 各委員から何か発言あるか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 農林水産部の水産振興計画だが、先日予算特別委員会でも各委員が質疑していたが、パブリックコメントが終了すると参考資料が出てくると思うが、令和8年度までの水産振興計画なので、キングサーモンの話はたくさん出ていたが、それ以外の——ちょっと長いスパンで令和8年までの振興計画なので、それについての概要等、農林水産部のお話を聞く必要があるんじゃないかと思うところだ。

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 皆様そのように確認してよろしいか。(異議なし)
- ・ 日程等は今後のこの委員会もこれから4月10日前後に考えているが、その日程に合わせてだとか様々調整してまいりたいと思うので、よろしく願います。
- ・ 他に御発言あるか。(なし)
- ・ 散会宣告

午前11時29分散会